



2018年 春季号

平成30年5月発行 通巻第8号

人生を拓く



(奥富のお雛さま/ 撮影:大竹五郎)

■目次

- P2… 予告/第5回定期総会 6月5日に開催
さやま市民大学入学式 5年目を迎え19講座に358人が入学
- P3… さやま市民大学 29年度修了式 19講座の308人が修了
15番目のクラブ誕生! 狭山まちづくリストの会
- P4… SSCC 開設から19年間の開講講座と受講者数一覧
- P5… 活動支援・クラブ活動 会員募集中! 3支援と15クラブの紹介
- P6… 人間探訪 第⑦回 坂井敬一さん 同窓会やSSCCの設立をリード 先を読む案内人
- P8… ご無沙汰しております—あときの先生は今。第③回 中国語入門学科 小野寺有香先生
- P10… そうだったのか 狭山の現代史概説 第④回「狭山60年の歩み<1>」中山眞男
寄稿/ 入間基地とその周辺の思い出 (鈴木強)
- P12… 告知板 編集後記 / 同窓会ホームページ案内

「さやま市民大学同窓会」は皆様の貴重な会費で運営されています。

予告

さやま市民大学同窓会 第5回定期総会

6月5日(火)に開催

午後1時～ 市民交流センター1階

第2部 3時～ 交流会

さやま市民大学同窓会は、第5回定期総会を6月5日(火)に開催します。会場は市民交流センター(市駅西口、1階コミュニティホール)で、12時30分から受付を始め、開会は午後1時からです。

総会終了後、第2部として「会員交流会」を行います。参加費は500円で、出し物が予定されています。奮ってご出席ください。



4月14日に入学式

5年目を迎え 19講座に358人が入学

5年目を迎えたさやま市民大学では、4月14日に元気プラザ体育館で平成30年度の入学式を行った。入学者は、11講座と協賛の8講座を加えた19講座の358人である。なお、「地域ジャーナル講座」は応募者が規定に達せず開講を見送った。

入学式は、第1部は小谷野剛市長のあいさつや来賓の市議会議長らの祝辞があり、第2部は共通講座として、小山周三学長の『「協働のまちづくり」で個性豊かな狭山を創ろう』と題する講義、第3部は全体ガイダンスがあり、講座の運営方法や講座リーダーの紹介などがあった。

講座別の(入学者数/募集定員)は次の通りである。

まちづくりコース

1. さやま市民大学学長の「まちづくり講座」 (14/25)
2. ~~地域ジャーナル講座 (—/20)~~
3. 狭山の民話語り部養成講座 (34/20)
4. さやまの国際交流と異文化体験を考える講座 (13/20)

健康・福祉コース

5. 西武文理大学連携 健康づくりサポーター養成講座 (14/20)
6. パパ・ママのお助け隊養成講座・乳幼児期 (16/20)
7. 楽しいガーデニング講座 (21/25)
8. 暮らしに生きる楽しく野菜づくり講座 (18/20)

いきがいコース

9. 早稲田大学連携 いきがい講座 (15/30)
10. 狭山の歴史講座 (27/30)
11. 歴史小説家が語る、目からウロコの「逆転日本史」講座 (62/30)
12. オンナ磨きは自分したい、女子カアアップ講座 (25/20)

後期開講講座として「地域の防災リーダー養成講座」「パパ・ママのお助け隊要請講座・学童期」「女性のための産後ケア講座」「みんなの食育実践講座」などを予定している。

協賛講座

協賛講座とは市内の市民団体などが企画・実施する講座の開催を、さやま市民大学が応援するもの。

13. 入門英会話講座 (11/24)
14. 実用(おもてなし)英会話講座 (14/24)
15. トレッキング講座 (26/30)
16. パソコン講座初級 (11/20)
17. パソコン講座中級 (10/20)
18. 韓国語講座「るんるんハングル」 (12/20)
19. 子どもと楽しむサイエンス講座 (8/20)
20. さやまっ子の学習支援員養成講座 (7/20)



29年度修了式 3月17日 19講座の308人が修了

さやま市民大学の平成29年度修了式が3月17日に元気プラザの体育館であり、19講座の308人が巣立った。入学者は321人で、途中退学者が13人、修了者率は96.0%（昨年は96.9%）だった。

第2部は記念講演会で、講師は早稲田大学人間科学学術院・臼井恒夫教授の『高齢者の生涯学習と社会参加』。第3部は修了生の皆さんと修了団体との交流会があり、カフェコーナー（無料）も設けられた。

講座別の修了人数は次の通りである。

（修了者数/募集人数）

★印の3講座は後期開設

- さやま市民大学総合講座 (15/20)
- 地域ジャーナル講座 (15/20)
- まちのガーデナー講座 (16/25)
- 狭山地域ふるさと学講座 (25/25)
- みんなで楽しむ国際交流講座 (9/25)
- ★地域の防災リーダー養成講座 (15/25)
- 地域福祉とケアのあり方を学ぶ講座 (8/20)
- 西武文理大学連携 健康づくり・介護予防サポーター講座 (17/25)



15番目のクラブ誕生！ 狭山まちづくりリストの会

同窓会の15番目のクラブとして誕生した「狭山まちづくりリストの会」をご紹介します。

元気大学第2期目の2012年度（平24）に「地域・街活プロデューサー養成コース」が開講（1期のみ）しましたが、その修了生を中心に立ち上げた会です。同コースのオリエンテーションで、市の職員から「狭山市は少子高齢化問題を抱えているので、まちを活性化することを目指してください」とプレゼンがありました。そして、様々な賑わいのあるまちづくりの成功例が紹介されたが、それは地域住民の熱い想いと強い意志が感じられるものでした。

講座で印象に残ったのは、西武文理大の安田亘宏教授の「お宝探し」でした。狭山市はよく知られている自動車産業や七夕、航空祭、お茶以外に何があるのかと、ブレインストーミングをすると実に様々なお宝が出てきました。森など緑が多いこと、インフラが豊かであること、古代にさかのぼる長い歴史の痕跡があること、グローバル企業からオンリーワンの工場までがあること、魅力的なお祭りがたくさ

- パパ・ママのお助け隊養成講座・乳幼児期 (16/20)
- ★パパ・ママのお助け隊養成講座・学童期 (15/20)
- 早稲田大学連携 いきがい講座 (23/30)
- 狭山の歴史講座 (34/30)
- ★身近なところでソーシャルビジネスの“種”を見つける講座 (14/20)
- さやまっ子学習支援講座 (9/25)

協賛講座

- 入門英会話講座 (18/24)
- トレッキング講座 (27/30)
- パソコン講座・初級 (8/20)
- パソコン講座・中級 (14/20)
- 韓国語講座るんるんハングル (10/20)

こんなこと あんなこと

同窓会がからむニュースから

んあること、などを知りました。これらの気付かないお宝をもっと市民に知ってもらって、まちづくりをしようとの趣旨で発足させたのがこの会です。

過去9回にわたり実施した自転車による市内めぐりは、毎回ガイドマップを作成し解説をしながら延300人にまちめぐりをご案内しました。

最近の取組では、お宝中のお宝として、平家物語や吾妻鏡に登場する木曾義仲嫡男の、清水冠者源義高を祀る清水八幡神社と影隠し地蔵にスポットを当て、義高の鯉のぼりや義高ウォークを企画実行し、市民に留まらず市外や県外からも参加者が集まるようになりました。去年は富山県から20人余りの義高まちおこしの視察団がバスで来訪しています。

同窓会員の皆様との連携を。(会長・八島藤夫)



<資料> SSCCからの開講講座の変遷 期別・講座別 定員と入学者数

(集約責任/ 中岡 2018.04 現在)

SSCC

	第1期		第2期		第3期		第4期		第5期		第6期		第7期		第8期		第9期		第10期		第11期		第12期		第13期		第14期		全体		
	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	定員	入学	募集定員	入学者数	
生きがい(基礎)／いきがい生きがい(研究)	30	30	30	30			30	23	30	30	30	32	30	30	30	23	30	28	30	23	30	29	30	31	30	26	30	25	390	360	
いきがい余暇開発					30	36																							50	31	
パソコン 初級(A、B、C、D)	40	40			60	60	80	79	40	39	80	80	80	80	80	67	40	40											500	485	
パソコン 中級(A、B)		40	40		40	40	40	40	40	39	40	40	40	40	40	40	40	37										320	316		
パソコン 講師/実用					20	20																							60	60	
パソコン 基礎(入門)									40	40	40	40	40	36	40	39												200	193		
パソコン 基礎XP																	20	20	20	16									40	36	
パソコン 基礎VISTA																	20	20	20	18								80	79		
パソコン 初級XP																			20	20	20	18							40	38	
パソコン 初級VISTA																			20	20	20	19							40	39	
パソコン 中級XP																			20	13	20	18							40	31	
パソコン 中級VISTA																			20	20	20	19							60	59	
パソコン スキルUP																			20	20	20	20							20	20	
パソコン 初級W7-(A、B)																							40	40	40	40	40	35	120	115	
パソコン 中級W7-(A、B)																							40	40	40	40	40	40	120	120	
狭山の歴史(普通)	30	30	30	30	30	37	40	34	30	35	30	30	30	30	30	30	36	30	36	30	36	30	34	30	29	30	30	430	457		
歴史研究/ガイド			20	20	20	29			30	19			20	14			30	22			30	17						170	133		
歴史研究 石仏/文化財					30	32					20	18				30	25			30	15		20	11	20	13		150	114		
英会話 初級	20	20	20	20	20	20	20	20	40	39	40	39	30	27	30	30	20	20	20	20	24	20	27	20	18	20	19	340	343		
英会話 中級		15	20	20	20	22	20	20	20	24	20	20	20	23	20	20	20	17			20	14	20	20	20	20	15	20	255	251	
英会話 上級					20	21																							20	21	
ハンゲル 初級(入門)	20	20	20	19	20	22	20	19	20	18	20	19	20	18	20	19	20	16	20	24	20	23	20	18	20	19		260	254		
ハンゲル 中級		15	15		20	17	20	16	20	20	20	14	20	17															115	99	
ハンゲル 上級					20	14																							200	14	
中国語入門											20	20	20	20	21	20	19	20	12									100	92		
ガーデニング		20	20																										20	20	
レクリエーション		20	24																											165	170
ジャーナル					25	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	22			24	28	24	23	24	22			270	233	
マジック					30	30	30	30	30	27	30	22																	120	109	
楽農					30	33	30	29																					180	167	
高齢者ピアカウンセリング								24	23	24	24			30	28	24	26												102	101	
子育て支援																							30	27	30	15			60	42	
トレッキング																													60	62	
合計 (実入学者数)	140	140	280	269	435	456	408	390	412	398	418	401	408	391	412	379	368	348	350	307	344	334	334	313	344	307	294	267	4,947	4,700	
男性		71	130		237		214	211		193		180	177		161		154	164		180		178		178		161			2,411		
女性		59	108		176		176	187		208		211	202		187		153	170		133		129		106					2,205		
■入学者男女比(%)		55.45	55.45		57.43		55.45	53.47		48.52		46.54	47.53		46.54		50.50	49.51		58.42		58.42		60.40					男52:女48		
■新規入学者数	130	165	269		218		203		220		187		198		162		177		153		144		146		128				2,500		
新規入学者の割合	100%	64%	66%		58%		52%		55%		48%		52%		47%		58%		46%		46%		48%		48%				54%		

開講10月 同意会設立

注/ SSCCの第1期から第3期の3年間は複数科目の受講が可能であったため、第1期で10人、第2期で31人、第3期で43人の合計84人が複数科目受講者であった。この表では複数科目受講者はそれぞれの学科・コースに計上しているため合計では4,700人となるが、実入学者数はこの84人を差し引いた4,616人となる。

また、「新規入学者数」は各期とも初めてSSCCへ入学した人数である。従って、全体の2,500人は初めて入学した人の総数でSSCCに在籍した総実人数である。(SSCC終了時点での母集団は移動等を含めてこの人数となる)

ちなみに、「1人当たり受講科目・コース数」は1.85、入学者数に対する途中退会率は平均3%程度とみられる。

なお、市民大学では同期に2講座以上の複数受講も可能である。

元気大学

	第1期	第2期	第3期	全体	
	2011年(平成23)	2012年(平成24)	2013年(平成25)	募集定員	入学者数
CB起業	25	22		25	22
子育て支援者養成(パパママ)	20	12	20	60	48
健康づくり・介護予防サポーター養成	20	17	25	70	56
ソーシャルファーム援農者養成	25	16		25	16
コーディネーター養成	25	21		25	21
生涯学習案内人養成	25	26	25	50	38
CB(食と農)	25	12		25	12
CB起業(後期開講)			25	25	11
畑のセミプロ		25	15	25	15
ボランティアコーディネーター養成(前期)		25	13	25	13
庭木のセミプロ		20	20	40	42
地域・街活プロデューサー養成		25	25	25	25
ピリヤード指導者養成		15	16	15	16
まちづくり担い手養成			30	30	26
地域の防災リーダー養成			50	50	42
合計	165	126	180	515	403

市民大学

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期					
	2014年(平成26)	2015年(平成27)	2016年(平成28)	2017年(平成29)	2018年(平成30)					
★印は後期開講講座										
さやま市民大学総合				20	15					
さやま市民大学学長の「まちづくり講座」					25	14				
ジャーナル	20	15								
地域ジャーナリスト養成		20	16							
地域ジャーナル講座			20	9	20	15				
狭山地域ふるさと学		25	31	25	27	25	26			
狭山の民話語り部養成講座					20	34				
まちのガーデナー養成	25	28	25	24	25	22				
まちのガーデナー				25	16					
楽しいガーデニング講座					25	21				
暮らしに活きる楽しく野菜づくり講座					20	18				
みんなで楽しむ国際交流			25	15	25	10				
さやまの国際交流と異文化体験を考える講座					20	13				
地域イベント・プロデュース基礎			20	9						
健康づくり・介護予防サポーター養成	25	16	25	25	25	15				
(西武文理連携)健康づくり・介護予防サポーター					25	17				
西武文理大学連携 健康づくりサポーター要講講座					20	14				
パパ・ママのお助け隊養成講座	25	24	25	22	25	14				
パパ・ママのお助け隊養成(学童期)		25	28	25	23	20	13			
地域福祉とケアのあり方を学ぶ			25	17	20	9				
★狭山市認知症事業サポーター養成			25	26						
いきがい	30	30	30	30	27					
(早稲田大学連携)いきがい講座				30	23	30	15			
狭山の歴史講座	30	36	30	29	30	23	30	27		
狭山の歴史 石仏・文化財	20	17								
さやまの生活文化伝承	20	15	25	18	20	11				
スポーツボランティア養成					25	12				
まちづくり担い手養成	25	21	25	18	25	9				
生涯学習情報案内人養成	25	13								
歴史小説家が語る、目からウロコの「逆転日本史」講座					30	62				
オンナ磨きは自分したい、女子キャリアアップ講座					20	25				
★食と農のコミュニティ・ビジネス			25	23						
U-35 さやまのツアーづくりセミナー			25	16						
学習支援員養成			25	16						
さやまっ子学習支援					25	9				
★地域の防災リーダー養成	30	26	25	25	25	15				
★地域を支えるソーシャル・ビジネス育成			20	9						
★身近なところでソーシャル・ビジネスの“種”を見つける講座					20	12				
トレッキング	30	35								
ウォーキング			30	19						
パソコン 入門	20	20								
パソコン 初級	20	15								
パソコン 中級A	20	18								
パソコン 中級B	20	19								
実用パソコン中級	20	20	20	20						
実用パソコン実用	20	23	20	20						
英会話 初級	20	23								
英会話 中級	20	24								
実用英会話			25	23						
【協賛講座】										
パソコン講座初級	20	20	20	20	20	9	20	11		
パソコン講座中級			20	20	20	14	20	10		
韓国語講座「るんるんハンゲル」		20	8							
入門英会話講座			25	10	20	11	20	12		
実用英会話講座			24	23	24	21	24	11		
実用(おもてなし)英会話講座			24	22						
子どもと楽しむサイエンス講座							24	14		
さやまっ子の学習支援養成講座							30	8		
子どもたちのものづくり指導員養成				25	13		20	7		
トレッキング講座			30	32	30	27	30	26		
合計	465	441	490	441	583	419	444	276	448	358

活動支援・クラブ活動

会員募集中!

同窓会の部会一覧です。関心がありましたら「連絡先」へお電話ください。

2018年5月1日現在

会員数は 全体(男・女)

支援とクラブ名	代表者	会員数	入会金	年会費	連絡先	電話番号
学校支援(SSVC)	諸井寿夫	380(180・200)	なし	なし	事務所(プラザ内)	04-2927-1395
	市内公立小中校で、①各教科の授業ならびに放課後・夏期講習で先生の手伝い(無償)、②行政から受託して、休日に自主運営の各中学の放課後教室で学習指導(有償)を行う。					
狭山パソコン支援の会	北田勇	20(7・13)	なし	1,000	北田勇	04-2959-2899
	市内の4つの公民館と共催でシニアを対象に「初心者パソコン教室」を開催しており、今年度で16期目。27年度から市民大学協賛の「パソコン講座「初級」」を担当し、28年度から「中級」も。					
福祉支援 チョボラの会	大内輝夫	16(2・14)	なし	500	大内輝夫	090-4416-3619
	定例会は毎月第3火曜9時30分から社会福祉会館で。活動は各自が月1回～2回程度を都合のよい日程で。福祉施設や個人宅を訪問し傾聴を中心に、いろんな指導や手伝いを。					
SSCCウォーキングクラブ	木全英雄	91(42・49)	1,000	上期入会2000,下期1000	木全英雄	04-2955-0640
	県内や近県の低山・里山歩き等「安全に・楽しく・和やかに」がモットー。活動/年9回(貸切バス・電車ほぼ半々)、8.1.2月は自主。会報発行。④入会受付は従来の4月のみから通年に。					
手打ちそば・うどんを楽しむ会	元井一男	23(11・12)	なし	2,000	元井一男	04-2958-4146
	「そばグループ」と「うどんグループ」がある。実習と場所は、そばグループは第3金曜、うどんグループは第4金曜で、ともに9時～12時。会場はともに堀兼農業改善センター調理室。					
SC写真クラブ	戸田尚一郎	18(15・3)	なし	(月額)1000	戸田尚一郎	04-2959-3412
	奇数月:例会、偶数月:撮影会。定例会は会員の作品を相互に鑑賞、批評とともに、講師の助言を受け技術の向上に励む。文化祭や中央病院での展示、各種写真展に出展し作品を公開。					
歴史クラブ	井口孝之	93(61・32)	500	2,500	井口孝之	04-2952-3361
	①定例会;毎月第2水曜 ②春・秋の見学会(5月・10月) ③各研究グループの活動(現在9グループが月1回の活動) ④地域連携活動(自治会と史跡巡りなど) ⑤学園祭、公開講座など。					
SSCCグリーンクラブ	樋口勝利	49(39・10)	なし	500	高羅尚典	04-2959-5836
	主な活動場所;狭山市近郊、埼玉県内、群馬県内。定例活動;春季・秋季(30回記念)コンペ。対外活動;狭山市ゴルフ協会市民コンペに。県内開催プロトーナメントへのボランティア参加。					
SCパソコンクラブ	秋元浪江	16(5・11)	1,000	(半年)2500	秋元浪江	04-2952-0024
	定例会;月1回狭山台公民館。Word&Excel の演習問題集・ドリルなどを使用。講師は持ち回り前・後半各80分の2コマ制で。インターネットは常時接続可能。					
SSCC太極拳クラブ	葛西治	30(18・12)	1,000	(毎月)1500	葛西治	04-2957-6992
	健康医療体術「楊名時健康太極拳」の練功(主に中央公民館)。練功会;月4回(年間44回)の敢行。戸外練功や会員懇親会、新年会など会員同士の交流を図る。					
人間科学研究会	中山啓子	12(6・6)	なし	(隔年)1,000	中山啓子	04-2957-7714
	「脳科学」を中心とした著作の輪読会とその折々の話し合いをしている。5月からは『人工知能は私たちの生活をどう変えるのか』(水野操著)を選び、その進化の影響を勉強しています。					
古典芸能愛好会	鈴木強	23(11・12)	500	500	鈴木強	04-2952-8617
	古典芸能の鑑賞等を通じてわが国古典芸能への知識・理解を深めるとともに、狭山市の文化活動の活性化に努める。都内の寄席や国立演芸場等へ出かける。					
うた声さりね(コーラス)	高須晴子	22(2・20)	なし	(半年)1,000	高須晴子	04-2958-5176
	定例会;第1・第3火曜に広瀬公民館で。四季の歌年間歌曲を歌う。うたの上達より歌を楽しむ、仲良く。施設訪問ボランティアを実施し地域交流を。会員相互の親睦、健康増進。					
いきがい学科の会	中嶋亨	101(58・43)	なし	500	佐野悠輔	04-2952-7117
	「講演会」や「福祉でまちづくり講座」の開催。市民大学体育祭・学園祭・早稲田大学所沢キャンパス祭に参加、焼き鳥出店。JAXA見学会、旧軽井沢歴史の道散策等を開催。					
囲碁クラブ	山下邦夫	25(25・0)	なし	1,200	山下邦夫	04-2958-0906
	定例会;第1・第3・第5火曜(中央公民館)。毎回日本棋院普及員が2面碁で指導。市囲碁連盟等主催の諸大会参加。老人養護施設訪問。近隣市との交流会で親睦を深める。					
吹き矢クラブ	岩永大勝	33(16・17)	1,000	500	六車徳誠	04-2952-8025
	定例活動;毎週木曜定例練習会。狭山台公民館、狭山台体育館、西武ハイツ自治会集会所。対外活動として各種大会参加、ボランティアで地域連携活動。暑気払い、忘年会(新年会)を。					
さやま卓球クラブ	小林誠一	23(10・13)	1,000	3,000	小林誠一	04-2959-6830
	練習会;月4回。第1・第3水曜と第2・第4金曜に、主に入曽公民館(13時～15時)で。初心者にはコーチによる指導と練習マシンによる基礎技術の習得で更なる技術の向上に努めている。					
狭山まちづくりリストの会	八島藤夫	15(15・0)	なし	1,000	八島藤夫	04-2954-3442
	狭山市のお宝をの再発見し、それによる賑わいのあるまちづくりを目指し、様々なイベントの企画を行う。代表的なイベントは、自転車市内めぐりちゃりんこフェスタと義高ウォーク。					

人間探訪

自由闊達な人

第7回 坂井 敬一さん

2002年(平14)にSSCC同窓会の立ち上げに参加。学校支援ボランティアセンター(略称SSVC - 開設07年4月)発足の、足かけ5年前から周到な準備を経て、共にその後の運営に長きに渡って参加されてこられた。また、同窓会のいくつものクラブに参加して、クラブの創設にも関与されてきている。その活動範囲は市内に止まらず、知的好奇心のなせるままに、さまざまな外部の講座やセミナーに参加。終始先を読み、周囲に影響を与える。市内の生涯学習やボランティア活動の実践の指導者として欠かせない存在となっており、「生き字引き」でもあるのだ。今号は誌面を拡大して、「2025年問題」についてもお話しいただいた。(構成・中岡義)

同窓会やSSVCの設立をリード 先を読む案内人

●**略歴** 1934年(昭9・成年生まれ)、鳥取県米子市で出生。国民学校に入学した41年12月に日米開戦(真珠湾攻撃)、4年生時に単身学童疎開を体験し、翌年に敗戦。6-3-3-4の新学制で高校へ。53年(昭28)に東京へ遊学、早大文学部心理学科へ。サークルは社会心理学研究会に所属し、アルバイトで朝日やNHKの調査実務を体験、57年(昭32)に卒業。日本ビクターに入社、家庭用VTR「VHS方式」の世界普及戦に広報室長として関わった。後に合弁のVTRソフト会社に出向、社長として10年間在籍。94年(平6)に定年退職した。



現役時代を振り返ると、「出向してからは自分らしさが発揮でき、のびのびと存分に仕事ができたと感謝の気持ちでいっぱい。この期間の国内外の広い分野での経験が、退職後の人生をより豊かにする礎いしずえになった」と話される。

住まいは、横浜の住宅公団から67年(昭42)に狭山市水野に転入し、現在に至る。

●**憧れ** 会社勤めをしながら、リタイア後にしたいと描いていたのが4つあった。①各種講座の受講 ②国内外旅行や地域住人との交流 ③絵画教室 ④学生・社会人一年生の頃にお世話になった旧居の散策、である。

●**講座** 生涯学習の実践で各種講座の受講と関わりを、およそ年代順に列举してみる。

・2001年 SSVCいきがい学科研究科 テーマは「脳」受講。10月で修了。11月から有志で「人間科学研究会」をスタート、引き続き「脳」研究を

・2001年 高齢社会を考える会に入会 ~05年退会

- ・2002年 SSVC同窓会設立に参加
- ・2003年 ウォーキングクラブ入会
- ・2003年 グリーンクラブ設立(初代会長)
- ・2007年 市と業務委託契約締結しSSVC(略称)設立、初代センター長(2011喜寿で退任)。CN制度創設、広報紙『SSVC短信』『ともに学ぶ』創刊
- ・2010年 古典芸能愛好会に参加
- ・2011年 SSVCは第12回「朝日のびのび教育賞」受賞
- ・2012年 元気大学コーディネーター養成講座 講座企画兼講師
- ・2013年 いきがい学科の会創設
- ・2013年 「ボランティアの止まり木」設立に参加

●**趣味** 一番は、退職後すぐに始めた油絵教室(常火会に所属。新所パルコC)。1995年(平7)から今日まで22年続いている。17年(平29)末に55点を収録した画集を限定出版。

また、今でも公民館のパソコン教室やプログラミングの勉強会に参加。

●**学ぶ** 朝日カルチャーセンターで「民法」と「男の料理」を、別に「ワインアカデミー講座」などを学ぶ。そのほか、近隣6大学の社会人講座や彩の国いきがい大学、所沢市民大学などにも積極的に遠征受講した。必要と思う物のつまみ食い式ながら、少しは視野が広がったかなと思っている。

●**評判** SSVC同窓会を坂井さんらと共に開設され、ずっとその発展に尽力された大木浄きよしさんは、「**闊達**でシャープに尽きる」と評される。また、SSVC二代目センター長の諸井寿夫さんは、「世の中の先を読む先駆性をお持ちで、紳士的な対応は人を魅了させる大物感を漂わせている」と。同窓会役員の女性の皆さんからも、押しなべて「人あたりが優しく、博識」「常にユーモアがあり、見た目も言葉もとてもお洒落」「素敵に歳

を重ねて居られる方との印象」などの称賛が。

●座右の銘 「不激、不燥、不競、不随、可以為大事」だという。安岡正篤さんから教えられた清の哲人で政治家・曾國藩の「四耐四不」のうちの「四不」である。大事をなさんとする者は興奮してはいけない / ばたばたしない / くだらない競争をしない / 人のあとからついて行かない、との意味だ。なるほど、それを実践されているのは普段に垣間見られること。これは「今もって然り」なのだそうである。

●総括 定年退職後の24年間を振り返ると、ちょうど5年を節目として活動してきたことに気付かれるという。

- ・60～64歳/ 充電期間
- ・65～69歳/ 活動準備・助走期間
- ・70～74歳/ 充実活動期間
- ・75～79歳/ 選択と集中活動期間
- ・80歳～ / 終活・整理期

人生はこれからも続くが、ここでひとまずの総括を乞うと、「多くの人との出会いが、今日の自分をつくってきたことに感謝」する気持ちが大きい、といわれる。

●今後 元気なシニアの第二の人生(アクティブ・シニア・ライフ)を求めて、これからの生活設計を考えておられる。

- ①ライフワークである古代史の研究
- ②生涯学習とボランティア活動の継続
- ③生涯の趣味を探求。絵画、映画、音楽など
- ④友人づくりと新たなネットワークを
- ⑤健康管理



静物画『リンゴ』(喜寿の作品)

他人ごとではない!

「2025年問題」

どう対応するか

坂井敬一さんに聞く

「2025年問題」とは、何か。今から7年後ですが、私たちシニアと大いに関係があります。

その年の社会的背景を説明しますと、「団塊の世代」が後期高齢者になるのです。その人口は約3,500万人で、総人口の30%に当たります。つまり、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、かつて人類が経験したことのない超高齢者社会を迎えるということです。

それに加えてもう1つの大切な視点は、労働力が年々減少することです。つまり、高齢者層の増加に比して現役で働く人＝産業労働人口(15～64歳)が減少して行き、日本の総人口も共に減少に向かうという厳しい予測値です(社会保障・人口問題研究所推計)。結果、働いて税金を納める人口が減って経済活動そのものが停滞すると心配されているのです。

これが「2025年問題」の核心で、対策のお手本は世界のどこにもありません。日本が先頭を走っているのに、各国は日本がどんな手を打つか、じっと注視しているのです。いずれ私たちはその渦中に入ります。

その時の、国の社会保障費はどのようになるかの試算が出ています。医療費＝約54兆円、介護費＝約20兆円、年金＝約56兆円を加えた給付費総額は139兆円(2018/3月経産省推計)の予測です。

別の観点からみると、①病気になっても入院できる病院がない。病床は満杯です。自宅で療養など医療体制が心配です ②介護が必要になってもヘルパー不足で来てくれません。介護難民発生です ③老人ホームは既に満杯です。現在も待機者がいます ④認知症疾患の高齢者は確実に増加します。誰が面倒を見ますか ⑤独居老人が増えて孤独死(男性が多い)が多くなる傾向です。

こういう状況が当たり前になっては困ります。政府に「2025年問題」のビジョンはあるのか、バラバラの政策では困ります。同窓会会員も他人ごとではありません、自分のこととして考えたいものです。政府は段階的に消費増税をするのでしょうか。医療費・介護費の個人負担も引き上げられるでしょう。

戦後新設した時代遅れの「定年制」を廃止して、生涯働くしかありません。欧州では平均寿命が延びると、年金支給開始年齢を引き上げるところもあるそうです。オリンピックだ、改憲だなどと騒いでいる場合ではありません。今から手を打つ必要があります。

同窓会として、ここは一つ今から手を打つ必要があります。みんなで考えてみましょう。

- 何はともあれ、健康維持!
- 出来るだけ介護を必要としない、健康で自立した生活ができるような施策には積極的に参加しましょう
- 公助、共助、互助、自助、・・・「なんでも相談室」(会員119番)など必要ではないでしょうか
- 今まで以上に地域社会の輪を広げて、積極的に参加しましょう

中国語入門学科

小野寺有香先生

SSCCが開設して8年目の2007年(平19)に、「中国語入門学科」が誕生した。日中国交正常化35周年の年だった。11年までの5年間を継続したが、12年と13年は募集定員に達せず休講となり、14年の市民大学への移行時には、講座開設の計画はなかった。この開講した5年間を、通して講師を務められたのが小野寺有香先生である。30歳代前半で、その美しい発音は受講生を魅了させた。5年間で92人の修了生を輩出する。

その小野寺有香先生に、当時と中国語への「愛」を語っていただいた。

(構成 中岡義)

【小野寺有香先生のプロフィール】1972年(昭47)、東久留米市生まれ。母親が山西省育ちもあって、中学時代にテレビで中国や香港映画の中国語に興味を持つ。高校は中国語コースがある私立に進学し、大学は麗澤の中国語学科に。卒業後、商社に勤める傍ら、語学教育派遣会社に講師登録。狭山市ではSSCCのほかホンダでも教える。当時から約15年間、入間市に在住。現在は特許関連の仕事を中心に医療通訳にも興味を持つ。

●日本人にとって、中国語の発音がいかに難しいかの逸話が、昨年末にテレビを賑わせました。上野のパンダの赤ちゃんが一般公開されたとき、日本人記者が中国外務省の女性報道官(現・副報道局長)に、「シャンシャンの人気をどう思うか」と尋ねると、彼女はトンチンカンな答えをしたのです。日本外務省の「杉山」事務次官の中国語読みが、似た発音のための誤解でした。中国語は同じ「シャンシャン」でも、発音によっては意味が異なることを知りました。

日本語は中国語に比べ音が少ないので、どうしても音が重なります。日本語で「シャンシャン」といえば日本人は動物のパンダを想像しますが、発音によっては、中国人には違う音として捉えられる場合があります。その場合は、修飾語を付け加えて話せば伝わりやすくなります。例えば、質問に「上野のパンダに赤ちゃんが生まれましたが、そのシャンシャンのように。英語に近い言語といわれるので、似ている発音があることでの混乱は、笑い話としてもよく起こるのです。難しいながらも、楽しいものでもあると思ってもらえたらいいな、とも願っています。

●門外漢の私には、中国語は日本と同じ漢字なので馴染みやすい言語だと想像するのですが、その反面、「シャンシャン」の例をみると、どう付き合うのがよいのかわからなくなってきます。

難しい質問で、ある意味、永遠の課題なのですが——。まず、難しいという意識を持たないで、日本語と中国語の違いを理解することです。ただ、日本語に比べ中国語は音の数が多いです

し、一文字で表す音の幅も違います。日本語には全くない音もありますが、日本語にもある音で、意識的に区別していないだけで、実際には発音している音もあるのです。違いが分かれば発音できるようになります。

●先生が中国語を学ぶきっかけとなったのは何でしたか。どのように学ばれたのですか。

母が山西省で生活したこともあり、中学生の頃からテレビで香港映画を見たり、NHKの「中国語講座」を聞いて、中国語に興味を持つようになりました。日

本語にない発音が面白く、真似しているうちに覚えることもありました。学校は中国語のコースを選択できる私立の高校に、大学は中国語学科に進みました。卒業して、ある商社に勤務している折に、中国語に触れる機会がありました。

●先生がSSCCの中国語入門学科の開講に関わられた経緯をお聞かせください。

私は当時、「海外放送センター」という会社に講師登録をしていましたが、狭山市さんから中国語のレッスン依頼があると紹介され、お受けいたしました。人生の大先輩に教えるのは、私でいいのかとも思いましたが、受講生の年齢に関係なくご本人に興味があり、前向きに学ぼう



という姿勢に、自分を受け入れてもらえると感じたのです。カリキュラムは会社で決め、スタッフは市の方で決めていただきました。

●先生の授業では、中国語の最大の難関といわれる発声(発音)練習に、前期講座の全てを当てられたとお聞きしております。やはり、それだけ発音が重要だということなのでしょうが、受講生の反応は如何でしたか。

中国語の発音は日本語にないものもあるため、習得には時間がかかるのです。また、発音に間違ったクセがついてしまうと、直すのが大変なので、正しい発音と、きれいな発音のレッスンに時間をかけました。

人数が20人と多かったのですが、毎回のレッスンでは、できるだけ皆さんに声を出してもらい、全員の発音を聞くように心がけました。

最初は分かりにくい部分もあったようですが、皆さんは前向きで、飽きられることもなく、だんだん習得していると実感できました。その楽しい表情に変る瞬間が、私には何より嬉しいものでした。それを毎年味わえました。

●6期目の2012年(平24)4月は募集定員に達せず、休講となりました。13年も同様で、SSCCから市民大学に移行した14年には開講計画はありませんでした。先生はこの休講をどのように受け取られましたか。

もちろん残念ではありました。ただ、楽しい講座がほかにもたくさんある証拠でもあると思いました。PM2.5などの悪い環境が報道され、中国を訪れたいとの気持ちになりにくい事情があるのではとも感じました。

●講義された5年間で、強く印象に残っていることなど、思い出をお聞かせください。

学ぶ目的が個々に違ったにしても、難しいといわれている中国語に、ご自身の意志で参加されたのです。1年間学んで、中国に対して遠ざかる気持ちと、先入観を無くしてくだされば、それで良いと思っていました。それが、レッス

ンが進んでも欠席される方は少なく、最初は不安そうな表情をされていた方も、楽しそうに受講される姿がとても嬉しかったです。

●5年間の受講生は92人にのぼりますが、この修了生の皆さんにメッセージをお願いいたします。

中国語のレッスンにご参加いただき、ありがとうございました。お元気でいらっしやい

ますか。中国語に今も触れておられる方、今はちょっとお休みしている方など様々だと思います。どこかで中国語が耳に入ったとき、「あれ？この音、聞いたことがある・・・」「みんなで発音の練習したね・・・」

「中国語の歌も、みんなで歌ったよね・・・」と思っただけいたら嬉しいです。

●ところで、先生のその後と、現在の課題とされていることをお聞かせください。

海外放送センター(現グローヴァ)の中国語講師の仕事はお休みしています。現在は、特許の仕事を中心に、医療通訳の世界をのぞいています。外国の方が、安心して日本の医療を受けられる環境を作ることに、中国語が何か役に立てればとの思いからです。

●今の日本と中国の関係は、政治的には解決の難しい問題もありますが、文化や歴史が違えば、考え方や行動が異なる場合もあるのは仕方がないのかもしれませんが、ただ、民間レベルでの交流で互いを理解するには、言語は大きな力を発揮するのではないのでしょうか。先生のお話を伺っていて、中国語を学ぶ意義の1つは、そこにもあるように思うのですが。

その通りだと思います。言語はコミュニケーションに大きな役割を果たすと考えています。文化や歴史の違いも、どちらが良い悪いでなく、お互いに理解しあえたら、興味も広がり、様々な問題解決にも力を発揮するのではないのでしょうか。政治的なことは難しい部分もありますが、民間レベルでの交流は堅苦しいものではありません。話すことで友達もすぐに増えていきます。ぜひ、中国語を話して、交流を深めていただければと思います。



【写真】上・授業風景(2007年6月)
左・「中文系」は「中国語学科」のこと。
パネルは小野寺先生が作成されたもので、
毎年の体育祭や文化祭で受け継がれ、
受講生には共通の思い出深いもの。写真
右端の後ろ姿の方は野村甚三郎学長

そうだったのか 狭山の現代史概説

連載/ 第3回

狭山60年の歩み <1> 市町村合併と狭山市の誕生

同窓会歴史クラブ 中山眞男

1. 合併の目的、経緯

市町村合併の歴史は古く、現在の狭山市地域でも1889年（明治22）に中央政府の強権的な指示が行われた。近代国家の行政単位で、それまでの18村の体制から、1町（入間川）5村（入間、堀兼、奥富、水富、柏原）の体制に変わっていた。

そして1953年（昭和28）、戦後の混乱が落ち着いてきた頃、民主主義、国民主権の基に市町村の財政力強化のための大合併が実施された。まさに時代は変わり、戦後の米国指示で「財閥解体、農地解放」が実施され、従来の大会社、大金持ち、大地主に頼ることが不可能となり、一般民衆からの安定した「税収確保」が急務となっていた。このため、合併によって役所は個人情報を集約し、個人ごとに事業、給与、資産、相続等をまとめた「総合課税と自主申告制度」を展開し始めたのである。

2. 合併作業と町村の対応

合併には必ず反対が伴う。住民は役場、公的施設等の利用が不便になる。議員は議席が減る。職員も合理化の対象になるとか、従来の仕事や職場が変わることへの不安、不満等がある。

しかし、合併の効果として、①適正な規模によって多大な行政コスト削減が図れるし、②一次産業＝農林水産業の困窮した町村を、近在の町村が救い、③特定のボスや有力者が長い間、政治を握っている町村での弊害を廃絶することが可能である、と強調された。

県の対応は早かった。当初、現入間市を中心とした「豊岡グループ2町6村」と合わせた大合併を計画していたが、これを後回しにし、まず「入間川グループ1町6村」のみを具体化するべく動き出し、個別に各町村で議論が始まった。

まず当初のメンバーであった霞ヶ関村が川越グループに移り、堀兼村が隣接する「入間村」と川越グループの「福原村または日東村」の三村を、「併せて純農村」として再出発したいと反対の意思を表した。次いで、水富村が「豊水橋を挟んだ永い付き合い」を理由に、「豊岡町と合併したい」と申し出たのである。しかし会議を続けるうちに、当初案通りでまとめ、各町村議会の採決

でも、他に幾つかの意見、要望等が出たが、最終的には県の意向通りで決着した。

3. 新市の誕生

かくて合併案は決定し、次いで新市の名称討議に移った。町村代表6人で、各代表が希望する「候補市名」をそれぞれ2つ選んで投票することになった。

投票の結果は次の通りである。

入間川町代表→入間川・狭山、入間村代表→入間・狭山、堀兼村代表→武蔵・狭山、奥富村代表→入間川・入間、柏原村代表→武蔵野・狭山、水富村代表→武蔵野・狭山。

よって、「狭山」が5票でトップとなり、「狭山市」と決定した。現場の雰囲気は、茶業界からの「狭山コール」が大きく影響したようである。同時に宿題の「豊岡町を中心とするグループ」との合併に関心が高まった。

しかし、豊岡町グループは飯能市が絡んだ「西武町」の問題や、元狭山村の「東京都移転」というビッグニュースがあったため、グループの統一が長引き、12年経過して、ようやく1966年（昭和41）に「入間市」が誕生して実現したのである。

4. 新市制施行

1954年（昭和29）7月、狭山市は誕生した。人口31,053人、県下14番目の都市である。

国は、全国的な市町村合併を施行するに際し、次の2点に注視していた。①選挙が民主的に行われ、かつ議員数を効率化できるか否か、②予算が適正・適法に実施されるかどうか、である。

①については、市長選はまったく問題なかったが、市議会議員選挙で「議員選挙区」を「市域全体・狭山市全域」ではなく、従来通りの「町村」単位で実施する条例をつくり、なんと3期12年続けてしまったのである。つまり、立候補する人を初めから選挙地域を制限し、競争仲間を同じ町村に限定し、さらに、定員数が減らされて、熾烈な選挙となってしまった。例えば柏原選挙区では、合併前は定員16人であったが、合併後は定員3人に減員になったため、新人の立候補は非常に難しかった。

この結果、3期連続して当選した議員は入間川

町7、奥富2、堀兼・柏原・入間各1、水富0の合計12人しかいなかった。

かくて、合併前に105人いた議員は、わずか30人に激減したのである。

市会議員定数

	入間川	入間・堀兼	水富	奥富・柏原	合計
合併前	26	各 16	15	各 16	105
合併後	12	各 4	4	各 3	30

実施は第1回～第3回の12年間である。

立候補者数／第1回 47人 投票率89.7%
 第2回 44人 〃 91.9%
 第3回 44人 〃 89.4%

第4回目からは選挙区が狭山市全域に改められた。

②次に予算である。合併して半年間は暫定期間とし、1955年(昭和30)年度から公式に新予算が実施された。なにしろ、人口3万人の小都市である。まず市庁舎は、とりあえず入間川町役場を使用し、高校建設や市営バス運行を第一目標とした。

総予算1億1200万円のうち、繰越金を含めた「自

主財源」は過半額を占め、立派な予算だった。従来、町村では実現不能の大型公共工事として、市営住宅と県営住宅合計約1千万円を、多額の国・県補助で計上し、更に土木費・産業経済費1,850万円を追加し、市民の要望を“がっちり”と受け止めた感じがする。

さらに、翌31年度は待望の新富士見橋工事が6,000万円、公民館、小・中学校工事等が約2,000万円で施行された。

新しい市の出発で、「古い農村集落」から新しく「商工都市」へと舵を取ったのである。

◆次回からの予定とお願い

懸案の狭山市と入間市の合併は、その後49年が経過した2005年(平成17)3月に住民投票で可否が争われたが、これを次号で詳述します。続けて、「狭山事件」「人口急増・15万都市」等を予定しています。

そこでお願いですが、①狭山市誕生から現在に至る60年余りの間で、特に関心のある事件や事故は②「狭山の現在史」への評価や提案は、等のご意見を編集部までお寄せください。(編集部)

寄稿

入間基地とその周辺の思い出

鈴木 強 (同窓会員・72歳)

私は1968年(昭43)から74年まで、入間基地に航空自衛官として勤務しました。当時の入間基地はジョンソン基地とも呼ばれ、多くの米国軍人、軍属がいました。そして、多くの日本人労働者の働き場所でもありました。

当時の入間基地の正式名称は Johnson, Family, Housing, Annex (JFHA・ジョンソン住宅地区)でした。基地の中の家屋は瀟洒な佇まいで、舗装された美しい通りには、キャデラックやシボレー、ムスタング、マーキュリーなどが優雅に走り、正に別天地でした。大きな車体のアメ車が稲荷山公園の踏切を横切るときには、尾灯が「ガシャーン」と音を立てるのが入間基地の名物?でした。

私は米国人下士官と知り合いになり、彼を通して基地内にある日本人は立入禁止の、さまざまな施設に出入りができました。ナイター設備付きの野球場とか、フットボール場、飛び込み台付きの50mプールがあり、プールの脇はバーベキュー場でした。プールに入るには、その前に温水シャワーで体を洗って水着に着替えます。その頃の日本のプールは、水着に着替えた後、お尻を塩素の水溜まりにつけるだけでしたので、その違いに驚きました。

ほかに、テニスコート、階級別の3つのクラブ、ボーリング場、小中学校、ハイスクール、PX(高級スーパーマーケット)、図書館、教会、体育館、映画



館などがありました。当時のアメリカ映画の世界にいるような錯覚さえ覚えたものです。

特に稲荷山公園はジョンソン基地の将校の居住地となり、ハイパークと呼ばれていました。公園の中は車の走る舗装された広い道があり、よく手入れされた広大な土地に、二階建ての白い建物が点在していました。今でも家へのアプローチの階段がいくつか残っています。その広い敷地で金髪の少年、少女が楽しそうに遊んでいる姿は、それは別天地でした。住宅の規模も、当時ラビットハウスと呼ばれて蔑まれていた日本の住宅規模とはけた違いでした。

また、今のジョンソン・タウンは、基地の外にあった米兵用の住宅ですが、特に独身の兵隊が現地妻と住むために入間市や狭山市(鶴木に多かった)が作ったようです。

JFHAが横田に完全移転して、空き家になった住宅をアメリカ文化に心酔する若者たちが住み始めました。村上龍の『限りなく透明に近いブルー』の舞台は、横田基地周辺(福生)に存在したこの種の住宅です。

その後、中学校の英語の教員として勤めたり、日本人学校の教員として3年間を海外で暮らしたのですが、青春時代に「いつかは海外へ」の大きな夢を育ててくれたのがJOHNSON基地でした。

■告知板■ 行事カレンダー

日(曜日)	行 事	会 場	時 間
6月5日(火)	第5回同窓会総会	市民交流センター 1階	13:00~17:00
6月23日(土)	市民大学体育祭	智光山体育館	
10月上旬	同窓会交流会	(詳細未定)	
10月20日(土)・21日(日)	市民大学学園祭	元気プラザ	
11月15日(木)	会報『人生を拓く』第9号発行		

【編集後記】

■表紙の写真は、くふるさとギャラリー奥富(奥富ふれあい館1階)で開催された「第9回 奥富ひな祭り」から。古くは明治・大正から現代の七段飾りなど、地域の方々から提供された約500体が勢揃いして、毎年2月下旬から3月3日まで開催されます。また、同時期に「ぎやらりー入曾」でも、「お雛様とつるし飾り」を毎年行っています。そのうち、一度覗かれてみては。5月の表紙に、お雛様とはちょっとミスマッチですが、市内にはこんな催しもあるとのPRを兼ねて。

■『ご無沙汰しております』のゲストは、12年前の2007年に開講した「中国語入門学科」で、講師を5年間務められた小野寺有香先生です。プラザまでご足労くださり、コミュカフェも利用いただいて、お話しを伺いました。お目にかかって、その話される日本語の言葉にも、聞きほれてしまうほどに美しいものでした。当時の『カレッジニュース』(2007年度後期号)を繰ってみると、「先生が詩を読んでくださったときには、小鳥の囀りのように聞こえた」と受講生の一人が書いています。難しい中国語の発音のレッスンには、ぴったりの先生だったということでしょう。

■『人間探訪』は、同窓会の理事や監事を長年務められた坂井敬一さん。この方のリタイア後のシニ

ア人生を垣間見ますと、市内の生涯活動に参加し、指導する傍ら、外部の多方面での研鑽を積まれています。その多彩さに眩くなって、「探訪」するにはとても1頁では納まり切れませんでした。同窓会活動では、特にSSVCの設立と発展には欠かせない方でした。また、今号では、私たちシニアに関心がある「2025年問題」について解説をいただきました。

■同窓会に15番目のクラブとして【狭山まちづくリストの会】が誕生しました。会そのものの創立は、2012年(平24)の元気大学第2期に開講した「地域・街活プロデューサー養成コース」の修了生を中心にした立ち上げでした。まちの活性化を目指し、狭山市の「お宝」を探して、市内を自転車で巡ったりもします。その中心に置くのが、木曾義仲嫡男(長男)の源義高終焉の地・狭山にまつわる秘話伝承です。そのイベントとして、「入間川の鯉のぼり」や「義高ウォーク」などを企画・運営します。同窓会員の皆さんの参加と入会を歓迎していますので、一度、お声がけを、とのことです。(G)

■訂正して、お詫びします■ 前号(7号)にミスがありました。15ページの「活動支援・クラブ活動」紹介で、SSCCウォーキングクラブの連絡先が「木全英」とあるのは「木全英雄」、人間科学研究会の会員数で「15(98・6)」とあるのは「15(9・6)」でした。

●同窓会の「ホームページ」もご覧ください●



アクセスの手順

- ① ヤフー、グーグル等の検索欄に「さやま市民大学同窓会」と入力して、「検索」をクリックする。
- ② 「さやま市民大学同窓会」のトップページが開きます。

●『人生を拓く』の既刊号も見られます●

さやま市民大学同窓会 同窓会報『人生を拓く』 2018年春季号 通巻第8号

- 発行日 2018年(平成30)5月15日
- 編集 さやま市民大学同窓会 広報・広聴委員会
- 発行 さやま市民大学同窓会

〒350-1380 狭山市狭山台1-21 さやま市民大学事務局内
事務局/電話 090-3514-6002

E-Mail; nakajima.t@ae.auone-net.jp